令和３年度第４回（第 11 期第３回）さいたま市社会教育委員会議　会議録

○開催日時：令和４年３月 18 日（金）10 時 00 分～11 時 30 分
○開催場所：別館２階　第４委員会室
○出席者名：【委　員】若原　幸範議長、加藤　美幸副議長、石田　玲子委員、
井上　久雄委員、桑原　静委員、佐藤　理恵委員、
関根　公一委員、塚元　夢野委員、林　弘樹委員、
溝口　景子委員、村山　和弘委員、亘理　史子委員
【事務局】（生涯学習部）千葉　裕
（生涯学習振興課）山本　高弘、竹居　秀子、石田　悦子
久松　丈記、清宮　雅貴、髙野　未紗
（生涯学習総合センター）中村　和哉
（資料サービス課）尾﨑　尚子
○欠席者名：内田　崇史委員、小森谷　由紀江委員、髙山　俊介委員
○公開・非公開の別：公開
○傍聴人の数：なし

１　開　会

２　挨　拶

３　議　事

⑴　報告事項　前回会議について

令和３年度第３回会議の概要について、会議録に基づき説明した。

⑵　協議事項　第 11 期社会教育委員会議の進行について

ア　第３回会議意見まとめ

第 11 期社会教育委員会議提言を作成するうえでの検討テーマと検討方法について、資料を基に委員から寄せられた意見を提示した。

【質疑応答・意見】

＜林委員＞

社会教育委員には任期があり、行政職員にも人事異動があるが、地域づくりや人づくりには非常に時間と手間が掛かり、そのプロセスも大事になる。

そのためにどの程度本気で取組んでいくのか、具体的に実現していくのかについて事務局としての考えを前提として伺いたい。

＜事務局＞

前回会議でも、提言をどう生かしていくのかは委員のモチベーションに繋がる重要な問題だと御指摘があった。事務局としては生涯学習を最終的にまちづくりにまで繋げていくため、いただいた提言を基に積極的に行動していく心積りである。

＜林委員＞

具体的な提言の中身は実現の可能性に応じて変わるものと考える。社会教育委員会議には、行政に付随して検証したり提言したりという役割があるが、評論家的な立ち位置になるおそれがある。一方、行政の方でも、仕組み作りと環境整備だけをすれば全てが実現するわけでもない。

そのため、社会教育委員会議としてどこまで踏み込んでいくのかという認識を共有しておきたい。例えば仕組み作りであれば、現場の誰が実際に責任を持って推進していくのか、提言レベルであるならば、どういうチーム体制でどういう人達に呼びかけていくのかを考えなければいけない。

＜事務局＞

具体的な提言としては「こういったことを進めていけば実現できるのではないか」といった御意見を頂戴しながら、中身をまとめていくことになると思う。

その中で事務局として、実現は確約できない場合もあろうかと思うが、社会教育委員会議という場では率直な思いを話していただいて、その中で何ができるのかを形にしていきたい。

＜関根委員＞

実際にことを進めるためには市の予算との関連もあり、今の時点で事務局として完全にコミットするのは難しいのではないか。相対的な予算編成の中で、なるべく生涯学習を優位に持っていくための情報提供や案を考えるのがある意味この会議の趣旨であり、相対レベルのアイデアを出すことが大事と考える。

ただ、今の問題提起は御指摘の通りであり、それを意識した上で我々委員が全体を盛り上げるというコンセンサスがあれば良いと思う。

＜議長＞

もちろん提言を作ったらその先の見通しも考えておく必要がある。例えば提言ができた後の行動計画や、達成目標を考えることを視野に入れてもいい。またアイデアを出しても実現は難しいこともあるので、事務局も委員の意見を全部受け入れるだけではなく、忌憚なく一緒に議論していければいいと思う。その中で実のある提言を作成したい。

＜村山委員＞

まちづくりとなると必ず市長部局も関わってくる。例えば「欧米の共生社会を勉強しよう」という形での実践になると、市長部局の建設とか或いは共生社会に関わる部署の話になる。しかし、社会教育委員会議からそういうアイデアが出ても、まちづくりにちゃんと繋がる確約がないと、部局を超えてのまちづくりなのか、或いは市民の方がまちづくりに向かっていく姿勢を作るような啓発活動だけなのか、その範囲がよく理解できない。

まちづくりというテーマに最終的に持っていくのなら、委員の皆様も大いに意見があるだろうが、提言しても教育委員会の範囲じゃないからできないとなると、生涯学習が教育委員会だけの問題にとどまり、まちづくりとは意味合いが違ってきてしまう。

＜生涯学習部長＞

現在、さいたま市は岩槻、大宮駅周辺、浦和駅周辺、中央区のまちづくりを進めて

おり、市庁舎についても移転の話が取りざたされている。町全体として大きく変わり始めているところである。

たしかに教育委員会が主導でまちづくりをしていくわけではないが、市長部局の会議に私も委員として参加しており、公民館・図書館からも参加しているので、生涯学習の要素をまちづくりに反映できるように働きかけている。皆様からいただいた御意見がさいたま市の変革の礎になるようにしたい。

現に、別の会議の場で林委員からいただいた御意見が、中央区のまちづくりに反映されようとしている。この会議でも同様に御意見を出していただき、まちづくりに働きかけていきたいと考えている。

＜副議長＞

今、コロナ禍で社会におけるつながりづくりへの意識が高まっていて、さいたま市では再開発とまちづくりが進められているとのことで、良い時期にこの会議が開かれていると思う。

啓発活動だけで終わるのかという話があったが、検討テーマの「市民と職員の双方に生涯学習ビジョンを理解してもらうには」という部分が啓発につながると思う。もう一点の「個人の学習成果を『人づくり』『つながりづくり』『まちづくり』に繋げ、地域社会に生かしていくためには」という点については、条件と環境整備の働きかけだけではなく、やはり教育委員会としての独自性を持ち、社会教育委員会議としての事業を提案していきたい。

事務局に対して本気であることを求める以上、社会教育委員会議としても本気になり、市民にもわかりやすくという視点をもって取組んでいきたい。

＜議長＞

事務局としても委員としても、双方が本気で取組んでいく意識を持ち進めていって欲しい。

イ　協議内容

（ア）　市民の学習ニーズの把握について

別紙１を基に、生涯学習に関連するアンケートの結果から読み取れるニーズについて説明した。事務局からは「健康と職業教育への関心が高い点」、「生涯学習の成果の生かし方として、地域に役立てたいというニーズが多い点」、「地域で活動する人材への支援が必要という意見が多い点」の３点を要点とし、市民の方に「学習の成果を活用する」視点を持ってもらうことを課題として提示した。

（イ）　会議スケジュール等について

資料を基に、第 11 期社会教育委員会議の今後の開催スケジュールを確認し、第４回・第５回会議で行う予定のワークショップについて事務局から説明した

【質疑応答・意見】

＜林委員＞

全体的に生涯学習という言葉自体がぼんやりしている中での市民意識調査という印象を受けた。「生涯学習で身につけた知識や技能を生かすために、どのような活動に

参加してみたいですか」という質問について半数近くの人が「特にない・わからない」というのが非常に象徴的で、生涯学習が何に繋がるかについてほとんどの市民にイメージがない。とはいえ、その次に多い回答として「まちづくり・地域づくりを支援する活動」が出てくるところも面白い。

生涯学習はあらゆるところに繋がっている。教育委員会という範疇にとどまらず、地域づくりと人づくりが核になるのは全部局共通のことなので、その中で生涯学習が本当にリンクしているのかはなかなか見えづらい。

一方で学習ニーズに関しては、具体的に役に立つことを学びたい人もいれば、成長につなげたい人もいる印象がある。

ワークショップについては、ヒアリングを行う事業の案としてどのようなものが上がってくるのかを伺いたいのと、事業の現状の発表とそれに対する所感と改善案みたいな形になってしまうと、現状行っているものの範疇でしか提言が繋がっていかないのではないかという危惧がある。現状はこうだけどそもそもこうありたいというものを作っていく部分は欠落していく印象を受けた。

＜議長＞

学んだ成果の生かし方がわからないという市民が非常に多いという点はやはり問題となるので、学ぶことの意味や意義をどのように市民に理解してもらうかは、我々の問題意識として持っておく必要がある。

＜事務局＞

お示しした生涯学習市民意識調査は平成 30 年度に無作為抽出で市民の方に御回答いただいた調査である。生涯学習活動をされてない方も含めての調査であり、これが一般的な市民のある程度統計的なデータと認識している。一方団体調査の方は実際に公民館活動等をされている団体への調査である。

意識調査は生涯学習推進計画の改定に合わせ、当時の社会教育委員会議で質問項目等への御意見をいただきながら実施した。また何年後に調査すべきなのかという点も含め、ニーズの把握の仕方についても今後社会教育委員会の皆様には御議論いただきたい。

また、ワークショップで取り上げる事業については、この後事務局の方から案を説明させていただく。

＜議長＞

アンケートから得られるものがある一方で、アンケートからは声として上がってこないものもある。そこは現場で市民と触れ合っている方々がよく御存知だと思うので、市民が求めることと同時に必要なことについても、今後のワークショップの中で把握しながら議論していきたい。

（ウ）　ワークショップにおけるヒアリングについて

別紙２を基に、事務局よりワークショップにおいてヒアリングを行う事業の例を提示した。

【質疑応答・意見】

＜桑原委員＞

私はシニアユニバーシティの事務局をやっているので、是非これを推薦したい。
もともと趣味のサークルのような、高齢者のつながりづくりに生涯学習がエッセンスとして交じる事業だったのだが、私がこの社会教育委員会議に参加していることもあって、より学びの要素を深めようと、グループ学習で１年間学んだことをさらに深く研究して、皆の前で発表するということを３年前からやっている。今年度は生涯学習人材バンク等、卒業後の出口となる部分も紹介して、「人づくり」「つながりづくり」「まちづくり」に繋げて活動している。
担当課ともビジョンを共有しながら事業を進めたいのだが、担当職員が入れ替わってしまうとなかなか引き継がれないということもある。そのため一度第三者を交えてビジョンについて話す機会を作りたいと前から思っていたので、今回推薦させていただいた。
＜議長＞
教育部局を越えたまちづくりにつなげるという意味でも、シニアユニバーシティは教育委員会以外の部署がやっている事業であり意義があると思う。また先方の担当職員にも、このワークショップの場に来ていただくことによって、ビジョン等について理解を深めていただく機会もなると考える。
＜林委員＞
「人づくり」「つながりづくり」に繋がる部分として、またアンケートでも防災意識が非常に高いので、消防団活動も参考になるのではないか。
消防団活動は人づくりでもあり、つながりづくり、地域づくりにも繋がっている象徴的な事業でもある。また、昨今の自然災害や地震への啓発等にも良いかと思う。
もう一つ「まちづくり」に繋げる点で、まちづくりに関わっている部署の事例等も市長部局との連携のきっかけとして出せないかと感じた。
＜村山委員＞
「人づくり」「まちづくり」両方に繋がるものとして、スポーツ少年団を挙げたい。スポーツ少年団では指導者の人づくりもやっており、チャレンジスクールのボランティアをやっている方や、地域の中でスポーツを通じて子どもたちに世界平和等の指導している方もいらっしゃるので、事務局から要請があれば御紹介することができる。
＜石田委員＞
ワークショップでグループ分けをするとのことだが、グループごとにテーマを分けるか、それとも同じテーマについて話し合うのか。
＜事務局＞
事務局としては同じテーマで話し合うことを想定していた。各グループで別々のテーマについて話し合うとか、回によって重点とするテーマを変えるといった御意見などあれば、ワークショップの進行全体についても御提案いただきたい。
＜副議長＞
ワークショップは２回しかないので、各事業の改善案等は出せると思うが、プラスアルファとして新しい提案・提言を作るには厳しい。
市役所の他部局に来てもらって話を聞くのも、逆に生涯学習ビジョンを理解しても

らえる機会としては良いと思うが、先進的な事例も他自治体にはあるので、それも紹介していただけると委員の視野や発想も広がると思う。
＜事務局＞
　来年度の指定都市社会教育主管課長会議に、さいたま市から「未来の『まちづくり』に繋がるものとして、市民の方が学んだことを地域や社会に役立てるために貴市で実施している事業はありますか」という議題を提出している。会議の開催は７月なので、その結果を社会教育委員会議にも御紹介したい。
＜林委員＞
　三島市にみしま未来研究所というところがある。元は地域を担う人材を育成するところから繋がりが生まれて、まちづくりの拠点となっている。
　まちづくりに関して本質を突く取組みを公民連携でやっており、非常に意欲もあってフットワークも軽いので、もしリクエストがあれば応じてもらえるのではないかと思う。
＜桑原委員＞
　ワークショップを実施する前にアンケート等を行うことは可能か。事前に情報収集を行って、それを基に検討できればと思う。
　まずワークショップの対象となる事業がどのような課題をもち、どのような現状なのかを把握することが大事だと思うので、もしチャンスがあれば事前ヒアリングの実施を検討いただきたい。
＜事務局＞
　事前ヒアリングは非常に有効だと考える。次回の社会教育委員会議開催までに文書会議のような形で、委員の皆様に何を質問したいか等の御意見を頂戴しながら、是非実施したい。
＜議長＞
　可能であれば事前ヒアリングをオンラインで行い、事後に動画で共有するような方法をとっても良いかと思う。
＜石田委員＞
　どの年齢層を対象にするかで内容も変わる。「人づくり」「つながりづくり」「まちづくり」とテーマの範囲が広いので、絞った方が分かりやすいと考えた。
　年代毎に傾向もそれぞれであり、例えば現在若者の参加が少ないので、ＳＮＳを活用して生涯学習に向かわせる方法等、内容を絞ることもできると思う。
＜関根委員＞
　年代で対象を絞るのは良いと思うが、さいたま市は 20 年前に 65 歳以上が 13％だったのが、直近では 23％を超えて間もなく 25％になろうとしており構成が変わってきている。また、長寿社会にもなり、高齢者の生涯学習の必要性が上がってきているという抜本的な動向変化もある。
　年代で絞るのであれば、このように年齢構成が変化していることを観点に置いて、吟味していただければと思う。
＜井上委員＞
　ＩＣＴにしても、オンラインにしても、高齢者にはついていけない部分がある。先

ほどの御意見のとおり高齢者の割合も大変高くなっているので、もう少し高齢者向けもあった方がいいかなという思いがある。
＜林委員＞
　実現に向かう提言を行うことについて、誰が担うのか、誰が関わって促していくのかを考えると、現役世代が非常に大事になってくる。
　もう一つ課題として、生涯学習に関わる人たちには子どもと老人が多いというのが昔から言われており、そこを担ってもらうことプラス提言を実現していくため、今足りない部分の人たちはフォーカスに値する。
　僕が知る限りでは実際に「人づくり」「つながりづくり」「まちづくり」に本気で携わっている人たちは、既存の生涯学習施設に対してほとんど期待していない。彼らの中には自ら生み出し行動している方も多いので、そういう人たちと繋がることは非常に大事なことだと思う。
＜佐藤委員＞
　高齢者や若者といった特定の世代を対象にすると、それ以外の漏れる人が出てきてしまう。勉強するのに年齢は関係ないので、若者だからこれ、高齢者だからこれという固定観念自体を取った方がいい。
　そもそもこのプロジェクトは、すべての人が払った税金で賄っており、むしろすべての人を対象にするべきだと考える。
＜議長＞
　生涯学習は本来すべての人を対象にしたものであり、広く扱われなければならないのはその通りな一方、焦点を絞って議論しなければならない場合もあることもまた事実なので、バランスが難しいところである。
　ここまでを本日は事務局で持ち帰り、また内容を練っていただいてもよろしいか。
＜事務局＞
　委員の皆様から御意見をいただき、具体的な提案のイメージもできてきたので、年度明け以降、次回７月会議までに文書会議等で御意見をいただきながら構築していきたい。
＜議長＞
　今回市民憲章をいただいたが、その中で「みずから学び言葉をみがき、新たな挑戦を志し、自分を耕しつづけます」ということを明確に位置づけているところが素晴らしいと思った。
　まさに我々がやっている社会教育や生涯学習と直接関わっていることだが、それがまちづくりに繋がる大事な柱になっているところが重要と思う。最初に確認した通り、このまちづくりにどう関わっていくのかを強く問題意識として持ち、今後のワークショップ等に取組んでいきたい。
＜事務局＞
　本日提言いただいた中でシニアユニバーシティ、スポーツ少年団、消防団活動、まちづくりに関わる部署等には、早めに事務局から接触をしたいと思うが、その前にもう一度年代を区切るか等の議論を踏まえた方がよろしいか。
＜塚元委員＞

先ほど対象を年代で区切ると、どうしてもはじかれる人たちが出てくるという話があったので、テーマで議論を絞るのが良いかと思う。

学習ニーズの把握のアンケートで、約半数の人が生涯学習の成果をどう生かせばいいか「特にない・わからない」と答えており、どのような目的で生涯学習を行うかという質問への回答の１位が趣味、２位が健康で３位が資格というところで、生涯学習の目的が自分自身となっている。そこで急に「どう社会で生かしたいですか」と問われても、市民は「自分のために学習をしているので、急にまちづくりに生かすとか言われても困る」となる印象を持ったので、自分が学んで良かったところを、「もうちょっと自分視点からまち視点になるには」というテーマで、ワークショップをやっていくのが良いのではないかと思った。

＜議長＞

「人づくり」「つながりづくり」「まちづくり」は一貫して我々のテーマとなるので、そこをテーマにするというところは良いと思う。

＜井上委員＞

先ほど林委員がおっしゃった、みしま未来研究所をお呼びすることは、予算的に可能なのか。

＜事務局＞

旅費等の支出は難しいが、オンライン参加であれば可能性はある。ただし来年度の旅費・謝金等の予算措置はしていない。

＜議長＞

それでは次回以降はまちづくりをテーマに据え、検討していくこととしたい。

⑶　**連絡事項**

「令和４年度第 53 回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会」に、桑原委員が分科会発表者として出席することについて報告した。

また、令和３年７月に制定した「さいたま市民憲章」と、「さいたま市総合振興計画基本計画」の概要版冊子を委員に紹介した。

４　閉　会

以上